



Title	日本英語検定協会からの受託研究について
Author(s)	岡田, 新
Citation	大阪大学英米研究. 2012, 36, p. 117-118
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99359
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本英語検定協会からの受託研究について

大阪大学言語文化研究科言語社会専攻英語部会では、昨年度に引き続き、日本英語検定協会から「大学英語教育における CEFR の活用」についての受託研究を受け入れた。2011 年度は、次のような事業を行った。

1. ヨーロッパ標準言語参照枠 (CEFR) に基づくアセスメント・テストである BULATS を、外国語学部 1 回生、2 回生全員に実施した。CEFR と TOEIC、TOEFL、さらにセルフアセスメントとの相関、本学の学生の英語力のプロフィールについての研究がすすめられ、こうしたデータに基づいて、アントニオ・スミス氏が学生の到達度に即して勉学をサポートするソフト (Progressive Adaptive Learning Assistant) を提案している。(本誌所収論文を参照)
2. World English Forum と題して、外国語学部生を対象に、英国大使館文化参事官、ブリテイッシュカウンシル駐日代表のジェームズ氏、イギリス総領事フィッシャー氏を招いて講演会を開催した。学生からも英語で活発な質疑が行われ、本格的なレクチャーとディスカッションの訓練の場となった。
3. 工学部の学生、院生を対象に、2 週間にわたって集中的な英語によるプレゼンテーション能力養成講座を開催するとともに、11 月には日本英語検定協会、Japan Times との共催で、理系院生のための英語プレゼンテーションコンテストを初めて正式に開催した。極めて質の高いプレゼンテーションが行われ、コンテストの様子は Japan Times でも紹介された。またオドワイヤー氏は、これと関連し、プレゼンスキルのためのさまざまなテキストや教授法を検討する研究を行っている。(本誌所収論文を参照)

この他、2010 年 2 月には、例年どおり、外国語学部生を対象としたエッ

セイコンテスト、プレゼンコンテストを開催する予定である。なお、本受託研究の英語プレゼンテーション能力養成講座を発展させる形で、大阪大学全体で、大学院生のための英語プレゼン講座を設置、国際学会での発表の支援をする組織を作る構想が検討されている。

来年度も引き続き、様々な取り組みを通じて、CEFR を基礎とした大学英語教育の新たな展開の可能性を模索してゆくことが求められる。

(文責 受託研究担当 岡田 新)